



# 2018年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2017年10月  
大阪ガス株式会社

# I. 18.3期上半期振り返り

# 18.3期上半期振返り①電力・ガス小売全面自由化

- ・「ガス・電気の料金メニュー」、「高品質な安心安全」、「暮らしのワンストップでのサポート」のトータルでのサービスを提供し、お客さまアカウントの最大化に向けた活動に注力
- ・電力や各種サービス・契約の獲得により、アカウントは増加

電力獲得件数  
累計約50万件

**お客さまアカウント※1の最大化**  
**上半期：+8万件（累計808万件）**

都市ガス、電力、L P G、エネファーム、  
住ミカタ・プラス、らく得保証、安心安全サービス、  
ユーティリティ・エージェント※2契約等

※1 都市ガス、電力、L P G、エネファーム、  
住ミカタ・サービス、ユーティリティエージェント  
契約等の延べ件数

ライフスタイルに応じた  
ガス・電気の料金メニューの拡充

- ・もっと割料金（4月～）
- ・あきない割料金（4月～）
- ・電気料金の値下げ（8月～）

高品質な安心安全の実現

- ・IoT対応の省エネ給湯器  
「エコジョーズ」を発売（8月～）
- ・通信を利用してお客さま宅を見守る  
サービス「みるぴこ」を発売（9月～）

お客さまの暮らしを  
ワンストップでサポート

- ・住ミカタ・プラス（4月～）

※2(株)OGCTS及び大阪ガス(株)の登録商標。ユーティリティ（ガス・電気・水など）に関する設備を持ち込み、保守・管理サービスからエネルギー調達までお客さまに代わり、一括でご提供

## 18.3期上半期振返り②成長投資計画の進捗状況

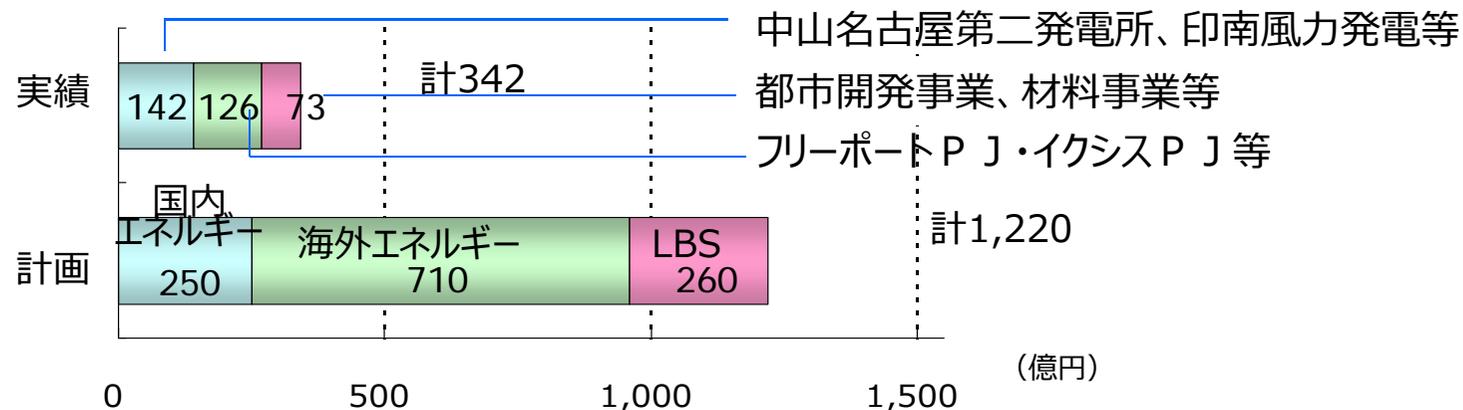
### <投資実績>

- ・国内エネルギー事業：142億円（主に発電所）
- ・海外エネルギー事業：126億円（参画済み案件への継続投資）
- ・ライフ&ビジネスソリューション（LBS）：73億円（主に都市開発事業、材料事業）

### <意思決定>

- ・市原市のバイオマス発電所、川崎市の都市ガス製造供給新会社、情報会社の取得等

- 第2Qの累計投資実行額は342億円（年間計画の28%）



- 上半期の新規意思決定案件

- ・千葉県市原市におけるバイオマス発電所の事業化決定
- ・川崎市扇島地区における都市ガス製造および供給の新会社設立
- ・株式会社アグニコンサルティングの全株式取得（オージス総研）

## 18.3期上半期振り返り③主なトピックス

ガス

LPG

- 8月 液化石油ガス（LPG）卸売・小売事業を再編統合、新会社「エネアーク」設立
- 8月 日本初、IoT対応の省エネ給湯器「エコジョーズ」を発売
- 9月 通信を利用してお客さま宅を見守るサービス「みるぴこ」を発売
- 9月 川崎市扇島地区における都市ガス製造および供給の新会社設立

電力

- 9月 中山名古屋第二発電所（G & P）の営業運転開始
- 9月 千葉県市原市におけるバイオマス発電所の事業化決定

海外

- 5月 タイ国Yokohama Tire Manufacturing 社向けオンサイトエネルギー供給プロジェクトの供給開始

LBS

- 10月 株式会社アグニコンサルティングの全株式取得（オージス総研）

ESG

- 9月 ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックスに初選定

※プレスリリース実施月を記載

## Ⅱ. 18.3期第2四半期実績

**インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています** : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

**「見通し」に関する注意事項** : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

**ガス販売量に関する注記** : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

**連結ガス販売量に関する注記** : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

# 18.3期第2四半期決算のポイント

## 対前年比較

### ■ 概況(連結)

売上高	電力販売量の増加、スライド影響等により、 <b>前年比9.8%(522億円)増収の5,846億円</b>
経常利益	スライド影響等により、 <b>前年比27.3%(136億円)減益の364億円</b> スライド影響を除くと、家庭用ガス販売量の増加等により、 前年比32.5%(106億円)増益の433億円

### ■ ガス販売量(個別)

家庭用	春先の気水温が低く推移し、給湯・暖房需要が増加したこと等により、 <b>前年比2.5%(19百万m<sup>3</sup>)増加の765百万m<sup>3</sup></b>
業務用等	設備稼働増や需要開発による増加があったが、発電用需要の減少、 発電設備の自社電源化に伴うガス販売カウント方法の変更等により、 <b>前年比0.6%(18百万m<sup>3</sup>)減少の3,203百万m<sup>3</sup></b>

### ■ 電力販売量(連結)

国内電力 販売量	卸・小売の販売量が共に増加したことにより、 <b>前年比17.8%(759百万kWh)増加の5,022百万kWh</b>
-------------	---

# 18.3期第2四半期ガス・電力販売実績

## ■ ガス販売量

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 18.3期2Q	B. 17.3期2Q	A-B	(A-B)/B(%)
個	ガス供給件数(千件) *	6,076	6,211	-135	-2.2%
	新設工事件数(千件)	47	45	+3	+6.0%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	21.6	20.9	+0.8	+3.6%
別	家庭用	765	746	+19	+2.5%
	業務用等	3,203	3,222	-18	-0.6%
ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )		3,968	3,968	+0	+0.0%
連結ガス販売量		3,986	3,985	+1	+0.0%

\*今年度より、お客さま数(取付メーター数)からガス供給件数に変更しています。ガス供給件数は、取付メーター数から空家などの閉栓中メーター数、他社のガスをお使いの方を除いた、現在当社のガスをご使用中のお客さまの数です。

## ■ 電力販売量(連結)

		A. 18.3期2Q	B. 17.3期2Q	A-B	(A-B)/B(%)
	小売	943	318	+625	+196.4%
	卸等	4,079	3,945	+134	+3.4%
国内電力販売量(百万kWh)		5,022	4,263	+759	+17.8%

# 18.3期第2四半期実績 I

連結：億円、( )内は連単倍率

		A. 18.3期2Q	B. 17.3期2Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.27)	5,846	(1.29) 5,323	+522	+9.8%	電力販売量の増加等
営業利益	(1.98)	332	(1.32) 499	-166	-33.5%	ガス事業粗利の減少等
経常利益	(1.55)	364	(0.98) 501	-136	-27.3%	ガス事業粗利の減少等
スライド影響除く 経常利益		433	327	+106	+32.5%	家庭用ガス販売量増加等
四半期純利益 <sup>*1</sup>	(1.31)	238	(0.84) 333	-95	-28.6%	*1 親会社株主に帰属する四半期純利益
EBITDA		778	907	-129	-14.2%	
		A. 18.3期2Q	B. 17.3期2Q	A-B		備考
スライド差損益	億円	-68	174	-243		
原油価格	\$/bbl	*2 51.4	43.8	+7.6		*2 18.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均。
為替レート	円/\$	111.0	105.2	+5.8		
連結子会社数		148	147	+1		

# 18.3期第2四半期実績 II

連結:億円	A. 18.3期 2Q末	17.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	18,636	17,112	18,865	-229	流動資産の減少等
自己資本	9,770	8,816	9,619	+151	
有利子負債	5,272	5,466	5,406	-134	
在籍人員(人)	21,107	21,009	20,762	+345	
自己資本比率	52.4%	51.5%	51.0%	+1.4%	
D/E比率	0.54	0.62	0.56	-0.02	
	A. 18.3期2Q	B. 17.3期2Q		A-B	備考
設備投資	405		348	+57	
減価償却費	437		416	+20	
フリーキャッシュフロー	220		221	-1	
ROA	1.3%		1.9%	-0.6%	
ROE	2.5%		3.7%	-1.3%	
EPS (円/株)	57.3		80.2	-22.9	ガス事業粗利益の減少等
BPS (円/株)	2,349.3		2,119.3	+230.9	

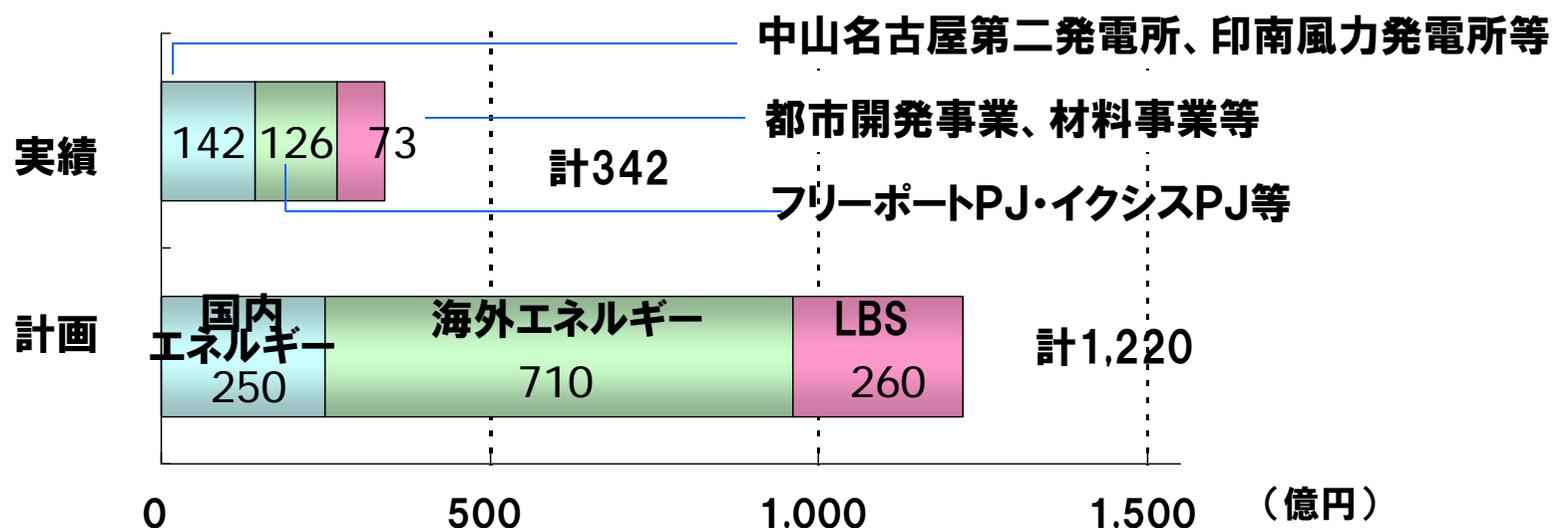
FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)－通常の設備投資による支出

# 18.3期第2四半期成長投資実績

- 18.3期2Qの投資実行額は342億円(年間計画の28%)
  - ・ 国内エネルギー：142億円 (主に発電所)
  - ・ 海外エネルギー：126億円 (参画済み案件への継続投資)
  - ・ ライフ&ビジネス ソリューション：73億円 (主に都市開発事業、材料事業)

※投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

## 18.3期の成長投資(実績)



# 18.3期第2四半期セグメント別実績

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました

「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売上高		セグメント利益*		備考
	18.3期 2Q	17.3期 2Q**	18.3期 2Q	17.3期 2Q**	
国内エネルギー・ ガス	4,360	4,097	134	360	売上:ガス販売単価の上昇等 利益:スライド差益の減少等
国内エネルギー・ 電力	708	488	94	84	売上:電力販売量の増加等 利益:電力販売量の増加等
海外エネルギー	107	64	18	-16	売上:ゴーゴンPJ稼働等 利益:出光スノーレ等で増加
ライフ&ビジネス ソリューション	955	958	78	69	売上:概ね前年並み 利益:不動産事業等で増加
消去又は全社	-285	-285	16	1	
連結	5,846	5,323	341	498	

\* セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

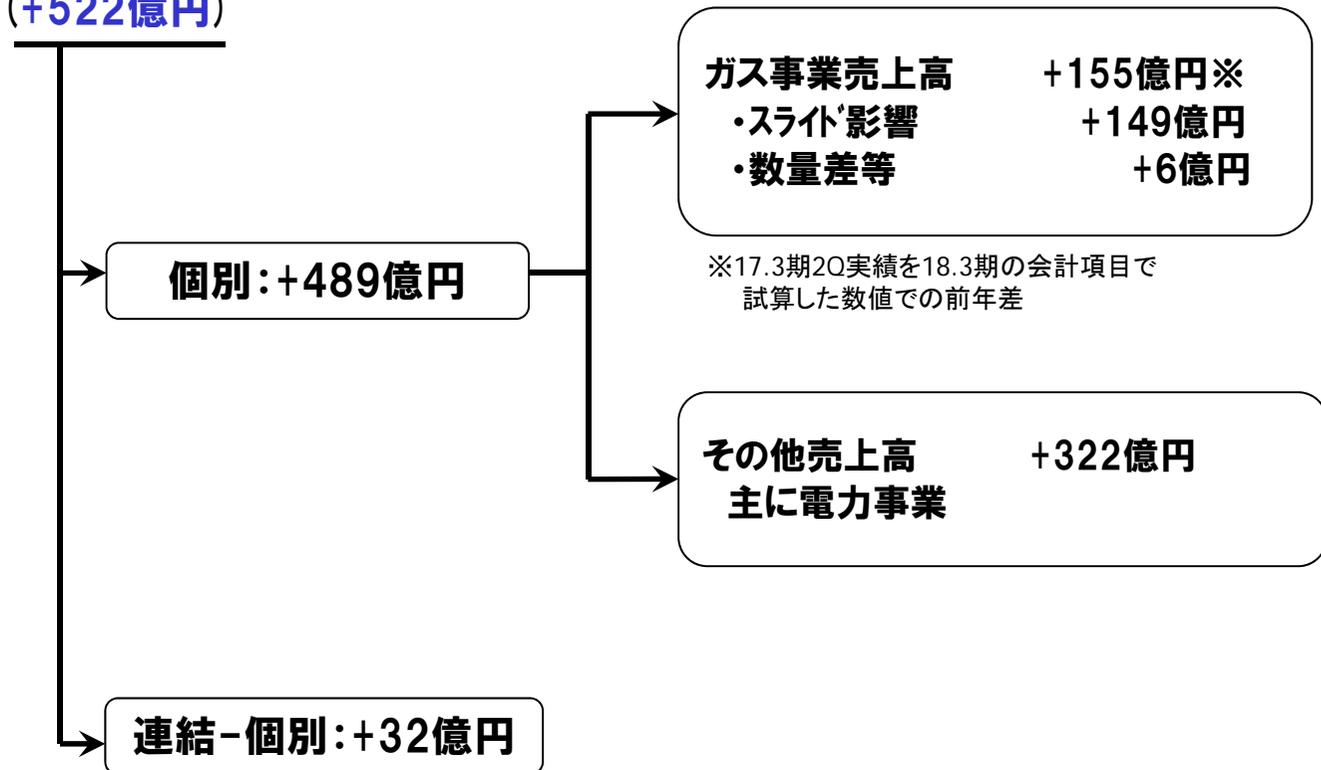
\*\* 17.3期2Q実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

## Ⅲ. 参考資料

# 18.3期第2四半期の売上高差異(対前期)

17.3期2Q → 18.3期2Q (差異)

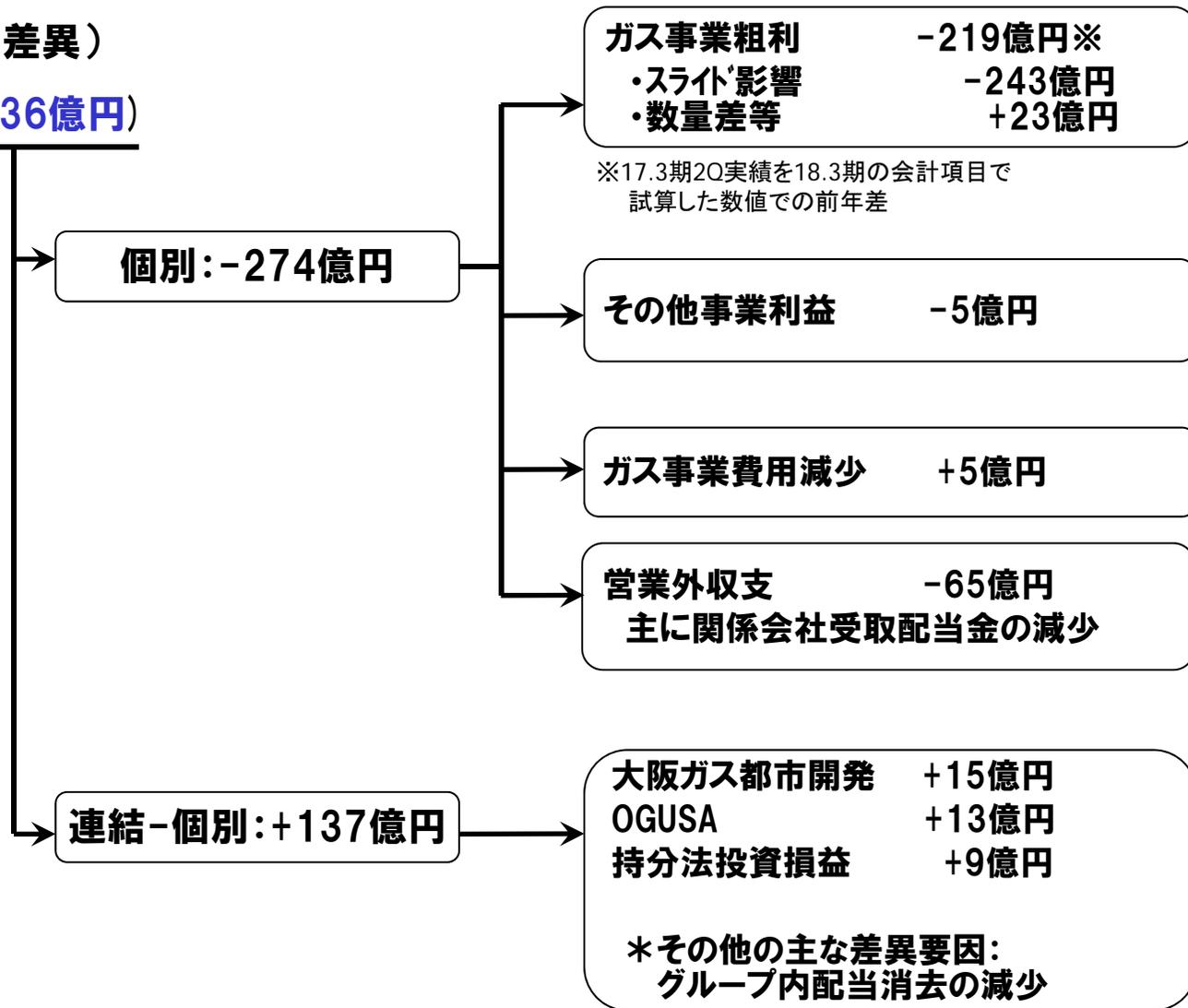
5,323億円 5,846億円 (+522億円)



# 18.3期第2四半期の経常利益差異(対前期)

17.3期2Q → 18.3期2Q (差異)  
 501億円    364億円 (-136億円)

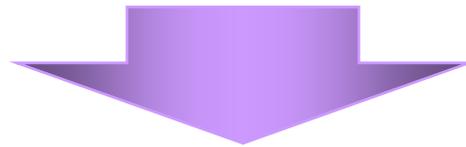
+-の符号は利益への影響を表す。



# 家庭用 ガス販売

## 18.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	-1.1%	
気水温影響	+5.5%	平均気温23.7度(対前期-0.4度)
その他	-2.0%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	+2.5%	



## 18.3期見通し

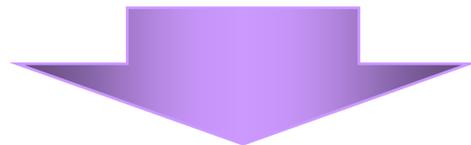
4/26公表の見通しから変更なし

- 平年気温を前提とし、ガス機器の効率化、世帯人数の減少、離脱影響等を織込むことで、前年比+0.4%、8百万m<sup>3</sup>増の2,111百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 業務用等 ガス販売

## 18.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.0%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.2%	
設備稼働増減	+1.8%	景気影響による稼働増
個別要因	-2.5%	特殊要因(発電需要の減少等)によるお客さま先での減少
その他	-1.1%	当社関係会社の発電設備の自社電源化
合計	-0.6%	



## 18.3期見通し

4/26公表の見通しから変更なし

- 発電需要の減少や当社関係会社の発電設備の自社電源化に伴うガス販売のカウント方法の変更影響などを織り込み、前年比-8.4%、552百万m<sup>3</sup>減の6,008百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 年度見通しに対するリスク要因

## ■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

## ■ 原油価格

- LNG価格は原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第3四半期以降の経常利益は-7億円変動する可能性がある。

## ■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第3四半期以降の経常利益は-10億円変動する可能性がある。

## ■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

## ■ 金利

- 金利+1%の変動に対して、18.3期の連結営業外収支が年間-4億円変動する可能性がある。

## IV. 参考資料 (2)－18.3期見通し

**4月発表時の見通しから、変更ありません。**

# 18.3期ガス・電力販売見通し

## ■ ガス販売量

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個別	家庭用	2,111	2,103	+8	+0.4%
	業務用等	6,008	6,560	-552	-8.4%
ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )		8,118	8,662	-544	-6.3%
連結ガス販売量(百万m <sup>3</sup> )		8,150	8,694	-544	-6.3%

## ■ 電力販売量(連結)

(百万kWh)	A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
国内電力販売量	10,303	8,948	+1,355	+15.1%

# 18.3期見通し I

連結:億円	A. 18.3期 見通し	B. 17.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	13,445	11,838	+1,606	+13.6%
営業利益	665	972	-307	-31.6%
経常利益	640	962	-322	-33.5%
当期純利益*	425	612	-187	-30.6%
SVA**	175	333	-157	-47.4%
スライド差損益 億円	9	137	-128	
原油価格 \$/bbl	55.0	47.5	+7.5	
為替レート 円/\$	115.0	108.3	+6.7	

\* 親会社株主に帰属する当期純利益

\*\* SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

# 18.3期見通し II

連結:億円	A. 18.3末見通し	B. 17.3末実績	A-B
総資産	18,429	18,865	-436
自己資本	9,455	9,619	-164
有利子負債	5,433	5,406	+26
在籍人員(人)	21,374	20,762	+612
自己資本比率	51.3%	51.0%	+0.3%
D/E比率	0.57	0.56	+0.01
設備投資	925	886	+38
減価償却費	859	862	-2
フリーキャッシュフロー	819	1,005	-185
ROA	2.3%	3.3%	-1.0%
ROE	4.5%	6.6%	-2.0%
EBITDA	1,570	1,884	-314
EPS (円/株)	102.2	147.3	-45.1
BPS (円/株)	2,273.1	2,312.7	-39.5

株式併合影響を  
考慮して算定

フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

# 18.3期セグメント別見通し

セグメントを見直し、18.3期より次の4セグメントを新たに設定いたしました

「国内エネルギー・ガス」「国内エネルギー・電力」「海外エネルギー」「ライフ&ビジネス ソリューション」

単位:億円	売上高		セグメント利益*		備考
	18.3期 見通し	17.3期 実績**	18.3期 見通し	17.3期 実績**	
国内エネルギー・ ガス	10,195	9,112	290	552	売上:ガス販売単価の上昇等 利益:スライド差益の減少等
国内エネルギー・ 電力	1,670	1,075	140	162	売上:電力販売量の増加等 利益:販売価格の下落等
海外エネルギー	250	226	40	80	売上:豪州LNG PJにおける増加等 利益:フリーポートPJ関連等で減少
ライフ&ビジネス ソリューション	2,085	2,083	190	186	売上・利益: 概ね前年並みで推移
消去又は全社	-755	-659	22	9	
連結	13,445	11,838	682	990	

\* セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

\*\* 17.3期実績を18.3期より設定した新セグメントで試算した数値

以上